

令和6年度公益社団法人京都市児童館学童連盟 委託事業



子どもの居場所をかんがえるアンケート・ワークショップ 実施報告書

文責：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所 レジリエンスシンカー 岡本卓也

取組の目的

京都市において、令和7年度を始期とする、次期京都市はぐくみプラン（子ども・若者総合計画）の策定にあたって、児童館等を利用する子どもたちの生の声を京都市施策やはぐくみプランに活用等していくために、子どもたちにとっての“居場所”をテーマに、アンケート及びワークショップを実施しました。

アンケートの概要

- テーマ : 居場所や過ごし方等のアンケート
- 実施期間 : 令和6年7月～8月
- 対象者 : 児童館、学童保育所を利用する子ども
(自由来館含む)
- 回答数 : 5, 298件
- 主な設問 : ▶家や学校以外の居場所はどこ？
どんな魅力がある？
もっとこうしてほしいところは？
▶家や学校以外の居場所がない理由は？
どんなところだったら行ってみたい？

※詳細は別紙を御参照ください。

アンケートの結果

○家や学校以外の第三の居場所について

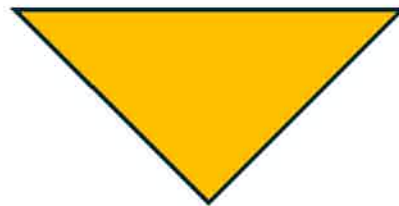
- ・祖父母、親戚、友人の家又は児童館、学童保育所を第三の居場所だと考えている子どもが多く、第三の居場所に自由に遊べることや、のんびりできること、大人が話を聞いてくれること等、様々な魅力を感じている。
- ・第三の居場所を今のままで良いと感じる子どもが多く、第三の居場所に行ったことで、楽しい時間が増え、気づき・学び等につながっている。

○第三の居場所と思える場所がない理由について

- ・家や学校だけで楽しいからという意見が半数近くを占めている。

○居場所に係る回答の傾向について

- ・第三の居場所の有無に関わらず、現在の居場所に対して好意的な意見が集まった。
- ・一方で、居場所に求めていること、魅力に感じていることは多様であり、その時の状況や感情によって必要な居場所は異なると考えられる。



そこで、喜怒哀楽の4つの感情ごとに必要な居場所について想いを巡らせていくワークショップを実施することにしました。

ワークショップの概要

テーマ：喜怒哀楽ごとに居場所を考えよう

実施期間：令和6年10月～11月

対象者：児童館、学童保育所を利用する子ども（自由来館含む。）

参加者数：239名

実施日時・会場：以下の通り



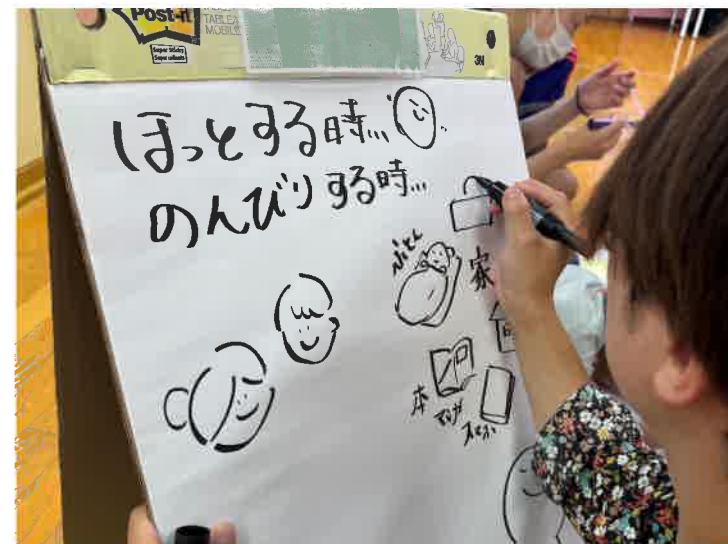
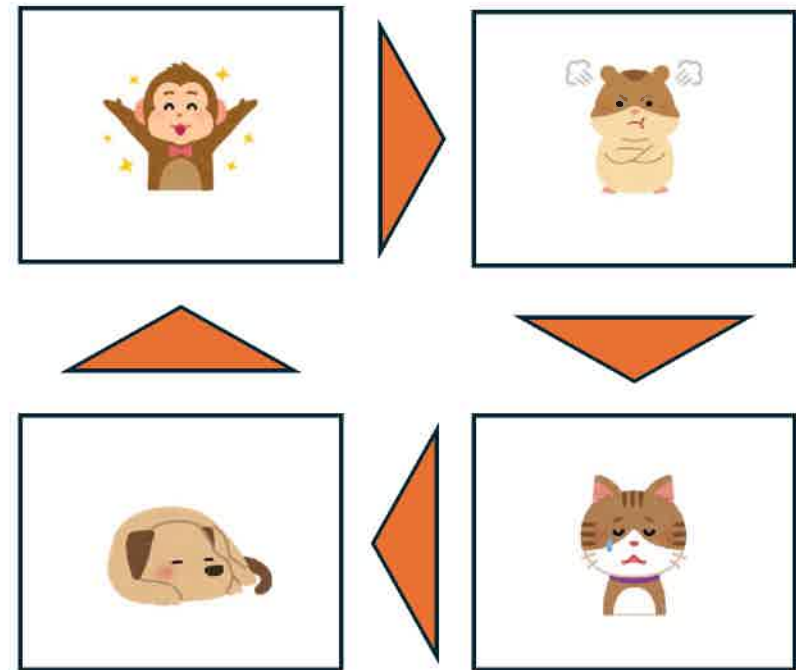
当日の様子は
こちらから

実施日（土曜日）	時間	会場
10月 5日	14時～15時30分	京都市西京極児童館
10月12日	10時～11時30分	祥栄児童館
10月19日	10時～11時30分	京都市室町児童館
10月26日	14時～15時30分	京都市伏見いきいき市民活動センター
11月 2日	10時～11時30分	京都市西文化会館ウェスティ 第1・2会議室
11月 2日	14時～15時30分	希望の家児童館
11月 9日	14時～15時30分	京都市東山いきいき市民活動センター
11月16日	10時～11時30分	信愛こどもの家
11月16日※	14時～15時30分	京都市児童館学童連盟会議室
11月30日	14時～15時30分	中山児童館

※は中高生世代限定のワークショップ

ワークショップのポイント

- ▶ 喜（元気になりたい）、怒（怒りたい）、哀（気持ちが沈んでいる）、楽（リラックスしたい）の4つの感情ごとの必要な居場所について、グループで話し合いました。
- ▶ 子どもたちの発言をサポートし、スムーズな進行を図るため、ファシリテーションの専門家を派遣。また、研修を受けた児童館職員が各グループの進行役を行いました。
- ▶ グラフィックレコーディングにより、議論の内容をイラスト等を交えながら分かりやすく表現しました。



喜から見えてきたこと

友達と一緒にワイワイ楽しく過ごせる空間。明るい雰囲気と、みんなで共有できるアクティビティや小物があり、達成感と楽しみを人と共有できる場所が求められている。

<そういう場所を作るためには？>

- ・ 明るい雰囲気や広々とした空間
- ・ 褒めてくれる（認めてくれる）人の存在
- ・ 歌や音楽を楽しめる空間
- ・ ゲームや漫画などがある場所
- ・ みんなでスポーツやクリエイティブな活動ができるスペース

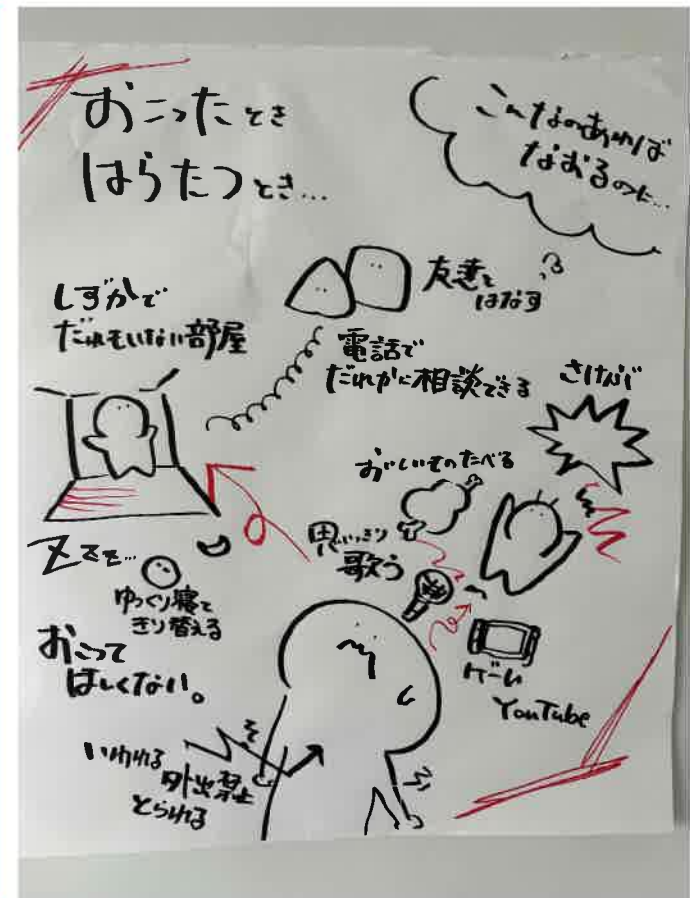


怒から見えてきたこと

感情を落ち着けられる空間。周囲から距離を置いて、冷静に自分を取り戻すことができる場所が求められている。

<そういう場所を作るためには？>

- ・クールダウンできる雰囲気のある空間
- ・壁や仕切りがあり、少し孤立できるスペース
- ・心を落ち着ける音楽や、外音を遮断できる工夫
- ・誰かに話を聞いてもらえる場所
(カウンセリングルームや信頼できる大人がいる場所)
- ・自由に絵を描いたり、書いたりできる場所
- ・怒りを表現するためのコーナー
(ストレス発散など)



哀から見えてきたこと

安心感の感じれる場所。哀しみの原因から距離をおけ、誰かに寄り添ってもらえ、温かくて優しい雰囲気、心を開いて話すことができ、癒される空間が求められる。

<そういう場所を作るためには？>

- ・ 落ち着いた音楽や自然の音
- ・ 人と距離を保ちながら、支えてもらえる空間
(カウンセリングエリアや静かな休憩スペース)
- ・ 感情を表現できる場所
(絵を描く、日記をつけるなど)
- ・ 悲しい感情を忘れられるよう工夫
原因から逃避できる手段がある



楽から見えてきたこと

何も気にせず、あるがままに心と体を休めることができる場所。忙しい日常から解放され、無理なく心地よく過ごせる空間が求められる

<そういう場所を作るためには？>

- ・クッションや布団など、心地よくなるもの
- ・お昼寝スペースや、静かな休憩所
- ・読書やおやつなど、体を休めたりリラックスした時間を過ごせるアクティビティ
- ・開放感を共有できる人や空間



アンケート及びワークショップの所感について

今回のワークショップでは「喜怒哀楽」という4つの感情ごとに、子どもたちが欲しいと感じる居場所について意見を伺ってまいりました。子どもたちが抱える日常の想いや、不安、喜びを直接聞くことの重要性を再確認し、私たち大人がどのようにそれを受け止め、行動に移すべきかについて多くの学びを得ることができました。

子どもたちの意見としては、感情ごとに異なる居場所のイメージが出てきた一方で、どの感情でも「安心でき、自分らしくあれるような場が欲しい」という意見も印象的でした。

一方で、話を聞いて終わりではなく、こうした声をどのように具体的な行動に結びつけていくかがやはり今後の大きな課題と感じています。

このアンケート及びワークショップを通じて得られた子どもたちの声は、次期京都市はぐくみプランの指針や児童館の運営等に活用できると感じています。

子どもたちの声に耳を傾けるだけでなく、それを受け止め、子育て支援や環境づくりに活かしていく意識が社会全体に広がっていくことを願っています。そして、子どもたちが日々の生活で感じる様々な気持ちを安心して表現できるよう、居場所が溢れる豊かな京都市を目指していきたいと思います。

(参考) 子どもの声を市長に届けました♪

第23回市民対話会議 (子どもの居場所) 開催！

日時：令和6年12月14日（土）

場所：京都市七条第三児童館

詳細はこちらから



第23回市民対話会議（子どもの居場所）

ページ番号336790

2025年1月27日

第23回市民対話会議（子どもの居場所）を開催しました

1 概 要

児童館等を利用する小学校6年生から高校生世代までの子どもにお集まりいただき、現在取り組んでいる次期京都市はぐくみプランの策定に向けた子どもからの意見聴取の内容について、松井孝治京都市長に報告するとともに、子どもの家や学校以外の第三の居場所について意見交換を行いました。

日時：令和6年12月14日（土曜日）午前10時～

場所：京都市七条第三児童館

参加者：30名

（参加団体）

公益社団法人京都市児童館学童連盟、各児童館等を利用する子どもたち



2 会議内容

▶出席者の主な発言内容

（児童館のスゴイところ・オシイところ（子どもグループの対話））

- ・友人や様々な年齢の子ども、大人と交流することができるので、視野が広がる。
- ・季節ごとの多様なイベントやクラブ活動等が楽しめてワクワクする。
- ・子どもだけで企画するイベントがあり、他の子どもとの交流や経験になる。
- ・季節や天候に左右されることなく、室内で様々な遊びが楽しめる。
- ・職員の皆さんが温かく、一緒に遊んでくれたり、相談に乗ってくれる。
- ・児童館でお世話になった恩返しに、将来児童館の先生になりたい。
- ・児童館の近くに公園が欲しい。
- ・他の児童館に遊びに行くことが楽しいため、もっと児童館が増えて欲しい。
- ・人が多くて、狭かったり、うるさかったり感じるときがあるため、個室などの一人で落ち着けるスペース等が欲しい。

(関わり続けたい！と思える居場所（子どもグループの対話）)

- ・気軽に行けて、友人や様々な年齢の子ども、大人と交流できること。
- ・親身になって話を聞いてくれる大人がいること。
- ・家では体験できないイベントやクラブ活動等を体験できること。
- ・子どもだけで考えて企画できる機会があること。
- ・今回のワークショップのように、自分たちの意見を自由に発信し、語り合えるような機会があること。
- ・自分の夢につながる経験ができること。

(子どもたちにしてほしいこと（大人グループの対話）)

- ・スマホに夢中になる時間だけでなく、地域行事に積極的に参加いただくなど、体験することを大事にして欲しい。
- ・自分がしたいことや自分のいいところを見つけて欲しい。
- ・どういう職業につきたいか、明確な目標を見つけて欲しい。

(自分たちの子どもの頃と今の子どもの違い（大人グループの対話）)

- ・スマホやSNS等の普及により、日々多くの情報を目にする。
- ・習い事など、やるべきことが多く、時間に追われている。
- ・昔のテレビ番組と違い、ユーチューブ等、いつでも好きな時間に利用できるコンテンツが溢れており、自分で時間を区切らないと制限がない。

▶市長の主な発言内容

- ・私が小学生の頃、放課後の晴れた日は校庭や公園、雨の日は友人の家で、日が暮れるまで遊ぶことが「居場所」だった。
- ・時代が変わり、今は家や学校以外にも児童館をはじめとした「居場所」があるが、本日皆さんのお話をお聞きし感動したことは、皆さん自身が「居場所」を創っているということ。
- ・皆さんは、児童館の広さや設備、遊具など、決められた環境の中で、イベントの企画やボランティア活動、様々な世代との交流等、自発的な活動を通じて、自ら「居場所」と「出番」を見出している。
- ・今日も、「居場所」に求める要素や、「出番」につながる取組、将来の夢など、様々な提案や想いをお聞きした。
- ・子どもたちの頼もしい姿は、家族のような存在である職員の皆さんのサポートあってのものであり、改めて児童館が温かい「居場所」であることが分かった。この場は私にとって大変素敵な時間となった。
- ・子どもの頃の経験は、今後の自分を形作る大切な経験である。皆さんには、今がその貴重な時間であることを心に留めていただきつつ、多様な経験を積みながら、全ての人にとって「居場所」と「出番」のある京都を共に創っていただきたい。

このページに対してご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

- ☐役に立った ☒どちらともいえない ☐役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

- ☐見つけやすかった ☒どちらともいえない ☐見つけにくかった

お寄せいただいたご意見は、今後のホームページ運営の参考とします。

確認する